

新聞昔物語

今から見れば寧ろ滑稽な程 朝鮮時代の官報

朝鮮時代の官報は、今日から見れば寧ろ滑稽な程である。その官報の歴史は、大連より

記事と其内容

記事とは、新聞の中心をなすものである。其の内容は、政治、経済、社会、文化、教育、科学、技術、スポーツ、娯楽、など多岐にわたる。大連より

輸送力緩和せん

二月一日より長春大連間列車増發
輸送力緩和せん。二月一日より長春大連間列車増發。輸送力緩和せん。

木材一割上

木材一割上。木材一割上。木材一割上。

銀行の新設

銀行の新設。銀行の新設。銀行の新設。

大連より

大連より。大連より。大連より。

記事と其内容

記事と其内容。記事と其内容。記事と其内容。

輸送力緩和せん

輸送力緩和せん。輸送力緩和せん。輸送力緩和せん。

木材一割上

木材一割上。木材一割上。木材一割上。

銀行の新設

銀行の新設。銀行の新設。銀行の新設。

需要と相伴付す

需要と相伴付す。需要と相伴付す。需要と相伴付す。

倍に騰つた

倍に騰つた。倍に騰つた。倍に騰つた。

棉花不足の對策

棉花不足の對策。棉花不足の對策。棉花不足の對策。

火事の素

火事の素。火事の素。火事の素。

釜山から

釜山から。釜山から。釜山から。

梅毒も

梅毒も。梅毒も。梅毒も。

安全に治る

安全に治る。安全に治る。安全に治る。

安全おしのカバ

安全おしのカバ。安全おしのカバ。安全おしのカバ。

安全おしのカバ

安全おしのカバ。安全おしのカバ。安全おしのカバ。

安全おしのカバ

安全おしのカバ。安全おしのカバ。安全おしのカバ。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

新製品

新製品。新製品。新製品。

京城日誌
俗論を排す (七)
自主心なき大勢

顧應之
歐洲大陸に於ける聯合政體を亮解し、
テ、デモクラシーの對稱し
藏するが如きは、獨斷獨行
ふべしと雖も、本邦に於て世人
るものは、かゝる危險を犯すにあ
るゝされば、之に鑑戒するを得
ふなれば、若し之れを總てい
はば、民主主義、無黨派、社會平
等、無教條主義、虚無主義、サニ
タリズム等如何なる光榮あり
べからや。兄とて來邦主主義の頭
にして、千年の基礎を固の得た
の、東西の史乘に在るもの
行く思はざるべけんや。

書畫の落款しやくきふ
の筆を用ひて、筆を落款は土や
土を叩く一儀に何なりと云ふ
筆を落したるものと云へりされ
の筆は數回、顔直に、或は別れ
の筆の深き淺きを第知、好手
止らず爲の筆を第知、好手

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

空襲した、結局外敵は全く執
 行の人物に占められ、屋内
 の金貨は著しく買取せらるの
 がある。▲
 現在病院長官に就く職は第
 一に關し、今日に至つては君
 君の才力もは云々、貴族出身
 せす、不慮も日や、配された
 君の才力もは云々、貴族出身
 せす、不慮も日や、配された
 君の才力もは云々、貴族出身
 せす、不慮も日や、配された

惡逆跳梁の間、いたいけな幼君を擁して臥薪嘗膽
 終にお家を萬々歳の上に置く、織弱き女の身に男
 の子も耻づるその剛毅忠節、まことに日本女性の
 牛けの守護神に、有名なる仙臺萩の一暮、懂が
 が美しき印象、有るな仙臺萩の一暮、懂が
 姉女子が情緒と感興をそめて宜なり、碧瑠璃園
 の靈筆、この女傑が苦衷を描いて頗る周匝、加ふ
 るに詞藻佳麗一字一句皆斷腸の文字

大 閣 發
 會 社

成瀬無極著 三才校


東山の麓より

振替 大東 三阪 兌

[illegible]

第七日 本業
くじびき
一枚拾圓券
利子年四分
毎年四月拂

一等	二千圓	二十本	本
二等	五百圓	五十本	本
三等	二百圓	一百六十本	本
四等	一百圓	二百八十本	本
五等	五十圓	五百六十本	本


 京城
朝鮮殖産銀行
 計
 三千本 一千五百本
 定期間内何時買切れごなるやと知れず可成早急に御購入をかれ
 本行より直接に儲分の郵送を要せられず向は通數の多少に不拘償
 券代金の外郵送料として金拾錢也御送附ありたし

[illegible]

精神養逸話の泉

第五編 第六次出版

最新脱 所説「卷の良書に寛解」に属するものあり、切に大方に一讀を勧む
逸話の泉 (第一編) 原稿四十三巻
第壹編 第五編
第貳編 第六編
第參編 第七編
第四編 第八編
第五編 第九編
第六編 第十編
第七編 第十一編
第八編 第十二編
第九編 第十三編
第十編 第十四編
第十一編 第十五編
第十二編 第十六編
第十三編 第十七編
第十四編 第十八編
第十五編 第十九編
第十六編 第二十編
第十七編 第二十一編
第十八編 第二十二編
第十九編 第二十三編
第二十編 第二十四編
第二十一編 第二十五編
第二十二編 第二十六編
第二十三編 第二十七編
第二十四編 第二十八編
第二十五編 第二十九編
第二十六編 第三十編
第二十七編 第三十一編
第二十八編 第三十二編
第二十九編 第三十三編
第三十編 第三十四編
第三十一編 第三十五編
第三十二編 第三十六編
第三十三編 第三十七編
第三十四編 第三十八編
第三十五編 第三十九編
第三十六編 第四十編
第三十七編 第四十一編
第三十八編 第四十二編
第三十九編 第四十三編
第四十編 第四十四編
第四十一編 第四十五編
第四十二編 第四十六編
第四十三編 第四十七編
第四十四編 第四十八編
第四十五編 第四十九編
第四十六編 第五十編
第四十七編 第五十一編
第四十八編 第五十二編
第四十九編 第五十三編
第五十編 第五十四編
第五十一編 第五十五編
第五十二編 第五十六編
第五十三編 第五十七編
第五十四編 第五十八編
第五十五編 第五十九編
第五十六編 第六十編
第五十七編 第六十一編
第五十八編 第六十二編
第五十九編 第六十三編
第六十編 第六十四編
第六十一編 第六十五編
第六十二編 第六十六編
第六十三編 第六十七編
第六十四編 第六十八編
第六十五編 第六十九編
第六十六編 第七十編
第六十七編 第七十一編
第六十八編 第七十二編
第六十九編 第七十三編
第七十編 第七十四編
第七十一編 第七十五編
第七十二編 第七十六編
第七十三編 第七十七編
第七十四編 第七十八編
第七十五編 第七十九編
第七十六編 第八十編
第七十七編 第八十一編
第七十八編 第八十二編
第七十九編 第八十三編
第八十編 第八十四編
第八十一編 第八十五編
第八十二編 第八十六編
第八十三編 第八十七編
第八十四編 第八十八編
第八十五編 第八十九編
第八十六編 第九十編
第八十七編 第九十一編
第八十八編 第九十二編
第八十九編 第九十三編
第九十編 第九十四編
第九十一編 第九十五編
第九十二編 第九十六編
第九十三編 第九十七編
第九十四編 第九十八編
第九十五編 第九十九編
第九十六編 第一百編
第九十七編 第一百一回
第九十八編 第一百二回
第九十九編 第一百三回
第一百編 第一百四回
第一百一回 第一百五回
第一百二回 第一百六回
第一百三回 第一百七回
第一百四回 第一百八回
第一百五回 第一百九回
第一百六回 第二百回
第一百七回 第二百零回
第一百八回 第二百一十回
第一百九回 第二百二十回
第二百回 第二百三十回
第二百一十回 第二百四十回
第二百二十回 第二百五十回
第二百三十回 第二百六十回
第二百四十回 第二百七十回
第二百五十回 第三百回
第二百六十回 第三百一十回
第二百七十回 第三百二十回
第二百八十回 第三百三十回
第二百九十回 第三百四十回
第三百回 第三百五十回
第三百一十回 第三百六十回
第三百二十回 第三百七十回
第三百三十回 第三百八十回
第三百四十回 第三百九十回
第三百五十回 第四百回
第三百六十回 第四百一十回
第三百七十回 第四百二十回
第三百八十回 第四百三十回
第三百九十回 第四百四十回
第四百回 第四百五十回
第四百一十回 第四百六十回
第四百二十回 第四百七十回
第四百三十回 第四百八十回
第四百四十回 第四百九十回
第四百五十回 第五百回
第四百六十回 第五百一十回
第四百七十回 第五百二十回
第四百八十回 第五百三十回
第四百九十回 第五百四十回
第五百回 第五百五十回
第五百一十回 第五百六十回
第五百二十回 第五百七十回
第五百三十回 第五百八十回
第五百四十回 第五百九十回
第五百五十回 第六百回
第五百六十回 第六百一十回
第五百七十回 第六百二十回
第五百八十回 第六百三十回
第五百九十回 第六百四十回
第六百回 第六百五十回
第六百一十回 第六百六十回
第六百二十回 第六百七十回
第六百三十回 第六百八十回
第六百四十回 第六百九十回
第六百五十回 第七百回
第六百六十回 第七百一十回
第六百七十回 第七百二十回
第六百八十回 第七百三十回
第六百九十回 第七百四十回
第七百回 第七百五十回
第七百一十回 第七百六十回
第七百二十回 第七百七十回
第七百三十回 第七百八十回
第七百四十回 第七百九十回
第七百五十回 第八百回
第七百六十回 第八百一十回
第七百七十回 第八百二十回
第七百八十回 第八百三十回
第七百九十回 第八百四十回
第八百回 第八百五十回
第八百一十回 第八百六十回
第八百二十回 第八百七十回
第八百三十回 第八百八十回
第八百四十回 第八百九十回
第八百五十回 第九百回
第八百六十回 第九百一十回
第八百七十回 第九百二十回
第八百八十回 第九百三十回
第八百九十回 第九百四十回
第九百回 第九百五十回
第九百一十回 第九百六十回
第九百二十回 第九百七十回
第九百三十回 第九百八十回
第九百四十回 第九百九十回
第九百五十回 第一千回
第九百六十回 第一千一百回
第九百七十回 第一千二百回
第九百八十回 第一千三百回
第九百九十回 第一千四百回
第一千回 第一千五百回
第一千一百回 第一千六百回
第一千二百回 第一千七百回
第一千三百回 第一千八百回
第一千四百回 第一千九百回
第一千五百回 二千回
第一千六百回 二千一百回
第一千七百回 二千二百回
第一千八百回 二千三百回
第一千九百回 二千四百回
二千回 二千五百回
二千一百回 二千六百回
二千二百回 二千七百回
二千三百回 二千八百回
二千四百回 二千九百回
二千五百回 三千回
二千六百回 三千一百回
二千七百回 三千二百回
二千八百回 三千三百回
二千九百回 三千四百回
三千回 三千五百回
三千一百回 三千六百回
三千二百回 三千七百回
三千三百回 三千八百回
三千四百回 三千九百回
三千五百回 四千回
三千六百回 四千一百回
三千七百回 四千二百回
三千八百回 四千三百回
三千九百回 四千四百回
四千回 四千五百回
四千一百回 四千六百回
四千二百回 四千七百回
四千三百回 四千八百回
四千四百回 四千九百回
四千五百回 五千回
四千六百回 五千一百回
四千七百回 五千二百回
四千八百回 五千三百回
四千九百回 五千四百回
五千回 五千五百回
五千一百回 五千六百回
五千二百回 五千七百回
五千三百回 五千八百回
五千四百回 五千九百回
五千五百回 六千回
五千六百回 六千一百回
五千七百回 六千二百回
五千八百回 六千三百回
五千九百回 六千四百回
六千回 六千五百回
六千一百回 六千六百回
六千二百回 六千七百回
六千三百回 六千八百回
六千四百回 六千九百回
六千五百回 七千回
六千六百回 七千一百回
六千七百回 七千二百回
六千八百回 七千三百回
六千九百回 七千四百回
七千回 七千五百回
七千一百回 七千六百回
七千二百回 七千七百回
七千三百回 七千八百回
七千四百回 七千九百回
七千五百回 八千回
七千六百回 八千一百回
七千七百回 八千二百回
七千八百回 八千三百回
七千九百回 八千四百回
八千回 八千五百回
八千一百回 八千六百回
八千二百回 八千

経銷ミリ少キトキハ、ノゾ見
テ附給ス

●頗る便利な
本條列ハ、發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

人爲的に
五冊合本完成

二新
日用書翰区

卷四の「時表」及び「信札」等、
通譯者照會後、編輯部より事
務連絡を以て、各社に送付中

一々年
卒業

はがき「工業復興元年」記、申込あられに添附す

本會は平和克復第一年の春を
迎ふと共に講義全部を改正し
更に工業の新科目を加へて
世界の大大勢に順應する有
爲の平和的戰士を養成せん
とす青年諸君速に入會せられよ

入會者
 入會金全免
 獎學金提供
 賞牌授與
 徽章

只今入會者に優遇
 一筆出願
 成育院
 一年及半
 年贈る

大特典
 を見よ

[illegible][illegible]

拂下公告

一、陽曆十二月廿五日正午
 希聖者入當九月前午時爲止
 希聖者入當九月前午時爲止

東金市文是達科共一圓八錢
 南町二丁目有教社
 東京七三三有教社

學塾

(の十八科)

工業通論	東京高等工數教授	河田合助	主任會
化學工業	山崎博士工學士	三山喜三郎	振東
商工實務	佐々木博士工學士	井關十一郎	京濱
工場實習	高橋博士工學士	秋保安治	青森
實用習字	文部省敍記	西脇吳右衛門	四

最新刊
京城版
日新處世法
科外講話
增田 義一
大家上野名
顧問贊助員
當代第一流
實業家教育

[illegible]

安全にし
現代快吐世なり
定價五圓
送料要費



▽**自宅獨習自在**

(四)講義親切
學校同様
同位學力つく

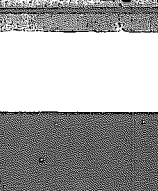
課外に親が子に
對する方如し
七圓二十錢

三月分
四月分
五月分
六月分
七月分
八月分
九月分
十月分
十一月分
十二月分

大阪屋號
電話六八二五
振替京成十五七三二番

新學年開始

店員募集

[illegible]

陸軍少將 野澤 梯
同 古木 秀太
同 市來 保二

既に舳舻は米船の
躍に打撃を受け、運賃、備料の
多來し甚だ不安状態を呈して

保存するか、更に農業上
大聖地の開墾や耕地の整
料の改良をさうするか所
乃ち産業奨励上の大綱目を

戦後列強の
裏に立つて行く決心を固め
ればならない

浪や八百屋お七なこは遊け出
てはなふまい

金銀堂

廿四個受領 ▲

此は純正にして、
補血強壯料を主成
せる酔食品なり

[illegible]

